

2025 年 8 月セミナー視聴者との質疑応答（概要）

1. 高校生のキャリア構築支援について

キャリア支援は、教職員の支援スキルがどのくらいあるかに大きく左右されるのではないかと。文科省としてどのような対策を取っているか？

（佐藤）教師の価値観、スキルに左右されない生徒の発達の段階に即した多様な取り組みが大事。文科省としてもキャリア教育の手引きを発行するなど多様な取り組みを推進している。

2. 人材育成に力を入れない企業が増えているのではないかと？

最近では人材が流動化し、人材育成に力を入れても仕方ないと考える若い企業が増えているのではないかと？

（堀内）人材が流動化すると、人材育成投資が減るわけではない。実際、アメリカの企業は、日本に比べ巨額の投資をしている。

3. キャリアコンサルタントの育成、もっと組織的にできないかと？

（諏訪）キャリアコンサルタントの活用は、まだまだ発達途上。得意分野をぜひ作ってほしい。また、カウンセリングだけでなく、企業経営に対するアドバイスができる力量がほしい。

（佐藤）文部科学省としては、キャリア教育を進めるに当たって外部人材との連携を重視している。今後も様々な外部の方々と連携したキャリア教育を推進していく。

4. 企業の人材育成は、従業員のキャリア面での希望を踏まえたものになっているかと？

（堀内）電機業界大手各社は、社内 FA 制度で毎年千を超える希望が出る。また、日立では、カジュアルに上司と話し合う 1 to1 (ワンワン) ミーティングを実施し、将来まで見通してどういう仕事をしていきたいか話し合っている。職種別キャリア教育も行っているし、やりたい仕事をつないでいく仕組みが整いつつある。

5. 高校中退者や不登校状態にあった者は、国・自治体・学校等のキャリア形成支援策を受けられるのか？厚労省も、若者サポートステーション事業を推進しているが、サポステメニューにも、IT スキル向上で若者をサポートする仕組みがある。これらの取り組みと学校・企業との関係をどう考えたらいいか？

(堀内) 企業の採用面接では、どんなことをしてきたのかを聞く。サポステでの取組は評価されると思う。しかし、サポステの制度については詳しくないので、回答は難しい

(鎌田) これまで議論してきたのは、通常の高校生（普通学科や職業学科に通う生徒）を前提にしたもの。若者サポートステーションは福祉の側面があり、違った観点からみる必要がある。重要なテーマであると認識している。

6. 若者の製造業、ものづくりへの関心が弱まっている。モノづくりに若者が関心をもってもらうためにはどうすればいいか？

(堀内) 企業としては、最悪の場合、海外で生産すればいい。しかし、もちろん、軸は日本に置きたいと考えている企業がほとんど。中高生にもものづくりを理解してもらう仕組みが必要。油にまみれる、重労働が多い職場は少ない。こうしたことは学校の先生も知らない。先生、生徒、保護者に製造現場を見てもらいたい。われわれが学校現場を知らないのと同じではないか。製造業には、やりがいのある、安定した収入を得られる職場も多い。